

2026 年 7 月 4 日

各学校長 様
中学校 技術科教員 様
(義務教育学校を含む)
小学校教員 様
高等学校教員 様
特別支援学校教員 様

技術教育研究会北海道支部
代表 平舘 善明 (帯広畜産大学)

技術教育研究会北海道支部 夏季研修会のご案内

猛暑の候、先生方におかれましては、益々ご健勝にて、日々の教育実践にご尽力のことと存じます。

さて、本会は 2020 年 1 月に創立 60 年を迎えた教育研究団体です。明日の授業に役立つ具体的な教材づくり・研究・開発などを行いながら、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などで技術教育に携わる先生方が抱える課題や悩みを共有し、明日への活力や解決策を見出すことを目的として、標記の研修会を開催します。詳細は下記の通りです。

時節柄、ご多忙のことと存じますが、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

1. 主 催 技術教育研究会北海道支部
2. 期 日 2026 年 7 月 27 日 (月) ～ 28 日 (火)
3. 会 場 北海道厚岸翔洋高等学校 (厚岸郡厚岸町湾月 1 丁目 20-1)
釧路市立共栄中学校 (釧路市花園町 9-40)
4. 研修内容
 - ・次期学習指導要領の検討動向にみる技術科のゆくえ
 - ・ものづくりで育つ特別なニーズをもつ子どもたちへの授業実践
[障害のある子だけでなく、これまで注目されてこなかった子に対する話題]
 - ・技術教育の現状と教材づくりに関する実践交流 など
 - ・地域の技術見学会(道内唯一の普通科と海洋資源科併設校の見学)

5. 日程

第一日 7月27日(月) 釧路市立共栄中学校

10:00	12:00	12:45	16:45
受付	開 会 式	実践交流	休憩
		理論研修講座Ⅰ 次期学習指導要領の検討動向に みる技術科のゆくえ	ま と め

第二日 7月28日(火) 午前: 釧路市立共栄中学校

午後: 北海道厚岸翔洋高等学校

9:00	11:00	12:00	12:45	16:45
理論研修講座Ⅱ 特別なニーズをもつ 子どもたちへの授業実践	意見 交換会・ 移動	休憩	地域の技術見学会 北海道厚岸翔洋高等学校 海洋資源科	閉 会 式

予定は天候状態等によって一部変更する場合があります。

6. 研修講座

Ⅰ. 次期学習指導要領の検討動向にみる技術科のゆくえ

講師 帯広畜産大学人間科学研究部門

平舘 善明 さん

Ⅱ. 「ものづくりで育つ特別なニーズをもつ子どもたちへの授業実践」

～材料加工の工具や治具の工夫と子どもたちの特性への対応について

講師 網走養護学校

船水 敦文 さん

講師 遠軽町立遠軽中学校望の岡分校

井川 大介 さん

7. 実践交流 日頃の実践の中で解決できない問題や悩んでいることを共有し、また、明日の授業へのヒントを持ち帰っていただくために、座談会形式で率直に話し合うことで、交流を深めます。

8. 申し込み 2026年7月23日(木曜日)までに下記の事務局へ以下の内容を下記のQRコード或いは、<https://forms.gle/zDhDdP4Uamr7LH1s5>から 入力の上、お申し込みフォームでお申し込みください。①参加希望者お名前、②ご所属または勤務先、③参加者個人の電子メールアドレス、④研修会当日に着信可能な参加者個人の携帯電話番号、⑤参加希望者のご専門(現在、中学校にて技術科を免許外指導でご担当の場合は必ずお申し出下さい)、⑥当日の交通手段(バス・鉄道・自家用車など)、⑦実践資料・教材紹介の資料提供の有無、⑧教員経験年数、⑨技術教育研究会会員・未入会について全て記載の上、ご送信ください。(資料準備のため期日厳守でお願いします)



9. 費用 (1) 参加費（資料代込み）は、3,000 円です。
(2) 夕食の会費は実費となります。会場は釧路市街地です。
・それぞれ当日お支払いいただきます。
10. その他 (1) 可能ならば、年間指導計画(題材配当表)、授業で使ったプリントや資料、授業や実習で使っているキット教材・教材・教具、テスト問題など、実践交流の参考となる資料を、お持ちください。
(資料は 15 部ご用意下さい)
(2) 水産実習設備の見学もありますので気候等にあわせた対策をお願いします。
(3) 製作したもの以外にも、参考教材・資料をお配りする予定です。
(4) 動きやすい服装と靴でご参加下さい。
(5) 宿泊については、釧路市内のホテルを事務局・現地実行委員会で斡旋します。希望される方は、お申し込みフォームに該当事項をご記入ください。シングルルーム素泊まりの宿泊費で 11,000 円程度かかります。第 1 日目受付時に事務局へお支払いください。
- ※ 地域の技術見学会は、北海道内に 3 校しかない水産系の科が設置されている高校である北海道厚岸翔洋高等学校を見学いたします。

担当事務局

技術教育研究会北海道地区常任委員 井川 大介
(遠軽町立遠軽中学校望の岡分校)

事務局 電子メール gikyouken@gmail.com

(研修講座の内容紹介)

I. 「次期学習指導要領の検討動向にみる技術科のゆくえ」

講師 帯広畜産大学人間科学研究部門 平舘 善明 さん

現在、中教審教育課程部会にて、次期学習指導要領下で中学校の「技術・家庭科」の技術分野と家庭分野を別教科に分離して「情報・技術科」を新設することが検討されています。中教審への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」に対して、昨年 9 月に「論点整理」が公表されましたが、そこでは、各学校段階と各教科の全体を貫く学習の基盤となる「情報活用能力の抜本的向上」が大きな柱に掲げられ、その中核を担う教科として、「情報・技術科」を位置づける方向が示されました。

この「論点整理」の公表後、情報・技術 WG グループでの各論の検討へと移行しており、7 月 7 日現在で計 11 回開催され、第 8 回 WG では「令和 8 年 6 月を目途に一定の結論」を得て教育課程企画特別部会および総則・評価特別部会に報告するスケジュールが示され、第 11 回 WG では「取りまとめ骨子」が示されるに至りました。そこでは、「論点整理」で現行の 4 単元構成であったものが、「情報技術」と「情報を基盤とする生産技術」の 2 領域に整理され、精選内容の対象として「材料の組織や成分、圧縮、引張、曲げ等に対する力学的な性質」「切断や切削等の加工の方法」等が狙上にのせられ、「総合実習」が加わる

等、決して小さくない変化が見受けられます。

本講座では、「取りまとめ骨子」の内容およびそこに至る情報・技術 WG の検討動向を把握し、これまでの私たちの教育実践の積み重ねとその成果に照らして、今後のあるべき教育実践のスタンスや対応すべき点について、議論していきたいと思います。

Ⅱ. 「ものづくりで育つ特別なニーズをもつ子どもたちへの授業実践」

講師 網走養護学校

船水 敦文 さん

講師 遠軽町立遠軽中学校望の岡分校 井川 大介 さん

地方公共団体の財政力が低下する中、公立中学校では人的・物的・財政的な教育条件が十分に整わず、現場の負担が増えています。その一方で、教育には「人材」育成が強く求められ、探究的な学びや情報活用能力の向上に向けた取り組みがますます重視されるようになっていきます。

中学校技術科では、こうした状況の中で、技術・職業教育の本質を改めて見つめ直すことが必要です。目の前の子どもの実態から「何を学ぶのか」を考え、「なぜそれを教えるのか」という教育の目的をしっかりと踏まえることが欠かせません。また、障害を有する子どもだけでなく、いわゆるグレーゾーンの子ども、外国にルーツのある子ども、不登校の子どもなどを含め、すべての子どもにとって意味のある技術・職業教育をつくるためには、現場の実践を積み重ねていくことが重要です。理念だけでは授業は動きません。どんな教材が子どもの学びを支え、どんな指導が効果的なのか。その答えは、普段目の前にいる教師による教室での実践からしか生まれないのです。

本講座は、「この教材、こんな感じでいいのかな…」と一人で悩んでいる先生方が、授業準備で苦労したことを中心に据えて、率直に語り合える場にしたいと考えています。全道から多様なアイデアが集まるため、明日の授業にすぐ使えるヒントが必ず見つかります。オンラインでは伝わりにくい、教師の熱意や空気感を五感で味わえることも講座の魅力となるでしょう。教材や生徒作品の実物、または写真を持参していただくだけでも歓迎です。

「理論学習や実習でどのように授業展開したらよいか迷っている。」という方にこそ、ぜひ参加していただきたい講座です。

（地域の技術見学会）

北海道厚岸翔洋高等学校の施設・設備見学と水産科高校についての説明が行われます。技術科の『水産』の授業内容に関して技術科担当の教員として基本を知るためにすぐに役立つと思われる見学会です。